

広島大学英語 Can-Do リストの開発

鬼田崇作・榎田一路・上西幸治・草薙邦広・阪上辰也・
田北冬子・達川奎三・森田光宏・山本五郎・吉川りさ
広島大学外国語教育研究センター

1. はじめに

広島大学外国語教育研究センターは、広島大学における外国語教育実施の責任部局として、主に大学1・2年生の教養教育における外国語教育の管理・運営を行ってきた。特に、英語教育においては、平成16年度（2004年度）に現外国語教育研究センターが設置されて以降、当センターが様々な改革や教育環境の整備に努めてきた。

本稿は、それらの活動の一環として、今年度、広島大学外国語教育研究センターが開発した「広島大学英語 Can-Do リスト」についての報告である。

2. 開発の背景

2.1. 広島大学における教養教育での英語教育の現状

広島大学の現行カリキュラムでは、教養教育の英語必修単位を6単位および8単位とする専攻プログラムがある。前者では、学生は一年次前期にコミュニケーション IA とコミュニケーション IB、後期にコミュニケーション IIA と IIB を履修し、後者では、前者の内容に加え、オンライン科目として、一年次前期にコミュニケーション基礎 I、後期にコミュニケーション基礎 II を履修する。これらの内容は図1にまとめられる。

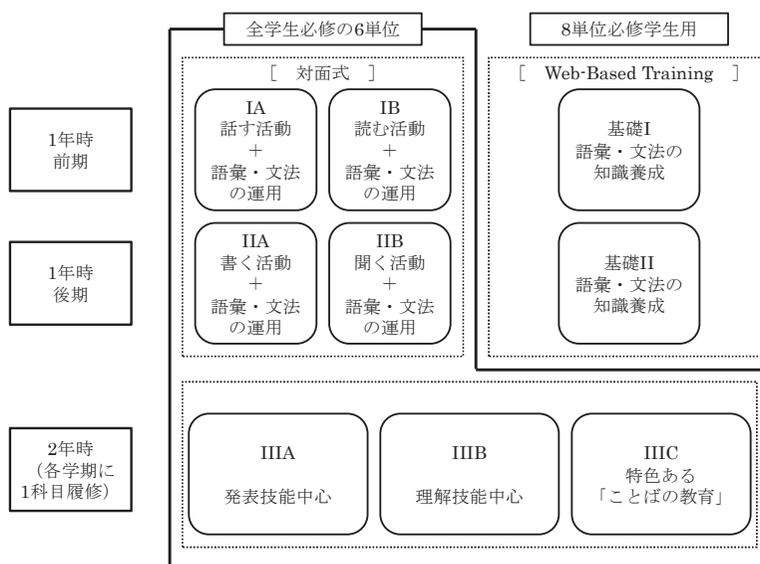


図1. 広島大学における教養教育での英語授業

図1に示される通り、一年次においては、英語必修単位が6単位であるか8単位であるかに関わらず、週2回の英語対面授業を通年で履修することになる。しかし、二年次においては、いずれの場合であっても通年でコミュニケーション IIIA, IIIB, IIICの中から2科目を履修するのみで、英語の授業回数が週1回に減る計算になる。さらに、三年次以降になると、英語を学ぶ専攻プログラムの科目外では、英語を学習する機会がより一層少なくなるものと思われる。そのため、英語力を高めるためには学生による自律的な学習が不可欠となる。

広島大学外国語教育研究センターでは、これまでも学生による自律学習を支援する試みを実施してきた。例えば、当センターはポッドキャストによる英語学習番組 Hiroshima University's English Podcast (榎田, 2009) を平成20年(2008年)より開始し、現在はさらに English News Weekly を追加し、計2番組を配信(提供)している。その他、TOEIC学習用のオリジナル eラーニングコンテンツ (TOEIC® Practice Questions) や学外の eラーニングサービス (ALC NetAcademy2, ALC NetAcademy NEXT など)、多読教材の提供などを通し、授業外での自律学習環境の整備に努めてきた。

しかし、教員による対面授業を受講せずに、学生自身の力のみで英語の学習を継続することは容易ではない。そのために学生は、英語学習に対する高いモチベーションを維持する必要がある。

このような背景のもと、本 Can-Do リストは、本学の学生が入学時点から高年次に至るまで自律学習を行い、英語学習に対するモチベーションを維持するための支援を行うことを目的に開発された。具体的には、本 Can-Do リストを用いて、大学入学時には英語を使用することで何ができるのか、卒業時には何ができるようになりたいのか、そのためにはどのような学習計画が必要か、などをパッケージとして提示し、学生生活を通して、英語学習を継続させられる環境の整備を目指すものである。

2.2. Can-Do リストの概要

英語教育に限らず、外国語教育においては、伝統的に文法シラバス (structured syllabus) が採用され、異なる文法項目をどのように教授および学習するかという観点から、カリキュラムや教材の開発、授業計画の組み立て、評価の実施などがなされてきた。その結果、文法項目を覚えられているか、また文法的に正しい文章を構成できるか、ということに外国語教育の主な焦点が置かれていた。しかし、このような方法では、あるカリキュラムや授業を修了した結果、当該の外国語を用いて「何が」「どの程度」できるようになったのかが不明確であり、実際の言語使用の側面から、カリキュラム・授業の評価、そしてそれによる授業の改善がしにくいという問題があった。

そこで、昨今の外国語教育研究においては、実際に目標言語を用いて学習者ができることをリスト化し、それをもとに外国語教育や学習者の習熟度を考える、という大きな方向性が示されることとなった。その最たる例が CEFR (Common European Framework of Reference for Languages; 欧州共通言語参照枠) と呼ばれるものである。日本においても、CEFR を日本の現状に合わせて修正し、日本版の言語参照枠を開発する試み (CEFR-J) などが見られ (投野編, 2013)、その影響力はますます広がることが予想される。

日本の公教育においても、Can-Do リストの形で英語教育を評価する試みは広がっており、文部科学省により平成22年(2010年)に設置された「外国語能力の向上に関する検討会」では、英語力向上のための5つの提言を示している (外国語能力の向上に関する検討会, 2011)。そのひとつ目として、「生徒に求められる英語力について、その達成状況を把握・検証する」という

提言において、「各学校が、学習指導要領に基づき、生徒に求められる英語力を達成するための学習到達目標を『CAN-DO リスト』の形で具体的に設定することにより、学習指導要領の内容を踏まえた指導方法や評価方法の工夫・改善が容易になる」と述べられている。また、平成 24 年（2012 年）に設置された「外国語教育における『CAN-DO リスト』の形での学習到達目標設定に関する検討会議」からは、具体的に各学校が Can-Do リストを作成するための手引きなども示されている（文部科学省初等中等教育局，2013）。

このような流れの中で、現在では、学校や各種法人など様々な団体が独自の英語 Can-Do リストを作成しており、それぞれの団体による Can-Do リストが乱立している状態である。このことは、Can-Do リストによる外国語教育が本来目指す方向性を見失わせるものとなりかねない。なぜならば、Can-Do リストとは、細かな文法項目や語彙項目を知っているか否かなどで外国語能力を評価するのではなく、目標言語を用いて「何が」「どの程度」できるのかを、より簡便にわかりやすく提示するためのものであり、明確さと高い共通性が必然的に求められるからである。しかし、多種多様な Can-Do リストが乱立した結果、Can-Do リスト間での比較や共有が困難となり、「何が」「どの程度」できるのか、ということが逆にわかりにくくなっている。

そこで、広島大学英語 Can-Do リストの開発においては、新たな Can-Do リストを一から開発するのではなく、広島大学の学生の現状と、本学で Can-Do リストを用いるための目的に合致し、妥当性、信頼性のある既存の Can-Do リストを元にする、という方針を立てることとした。この条件のもと、既存の Can-Do リストを精査した結果、一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会 (IIBC) による Can-Do リストを用いて、広島大学英語 Can-Do リストを開発することとした。

3. 広島大学英語 Can-Do リストの開発

3.1. 調査対象者

調査対象者は広島大学の学部一年生で、英語必修単位が 8 単位となっている主専攻プログラムを受講する 1 年生約 1,000 名である。この中で、TOEIC®IP テストを受験し、かつ Can-Do アンケートの回答に不備がない 985 名分のデータを用いて Can-Do リストの作成を行った¹⁾。

3.2. 質問紙

Can-Do リスト作成のための質問紙には、IIBC が開発した質問紙を使用した (Appendix)。この質問紙は、いわゆる四技能 (Reading, Writing, Speaking, Listening) に渡る Can-Do 記述に加え、人とやりとりする力 (Interaction) と機能的表現力 (Function) についての Can-Do 記述があることが特徴である。

質問紙の回答は、「全くできない」から「問題なくできる」の 5 件法とした (1: 全くできない, 2: ほとんどできない, 3: かなりじてできる, 4: ほぼできる, 5: 問題なくできる)。

3.3. データ収集

本プロジェクトで収集された主たるデータは、TOEIC®IP テストのスコアと Can-Do 質問紙の回答の 2 種類である。TOEIC®IP テストは、平成 28 年 (2016 年) 5 月 14 日に本試験、同 28 日に追試験が実施された。Can-Do 質問紙は、5 月 12 日から 16 日にかけて、調査対象者が属する授業時間内で実施された。

3.4. Can-Do リストの作成方法

Can-Do リストの作成は IIBC に依頼し、次の手順で行った。第一に、調査対象者の TOEIC®IP テストのスコアをもとに、100 点刻みの英語習熟度群を作成した (e.g., 200-295 点, 300-395 点など)。第二に、各調査対象者の TOEIC®IP テストのスコアと先述の質問紙に回答した結果との紐付けを行った。

次に、「Can-Do 項目」、「Can not Do」項目、「Can-Do with Difficulty 項目」を習熟度群毎に決定した。「Can-Do 項目」は、質問紙の各項目について「4：ほぼできる」あるいは「5：問題なくできる」と回答した調査対象者が 50%以上となる項目とした。他方、「Can not Do 項目」は、質問紙の各項目について「1：全くできない」あるいは「2：ほとんどできない」と回答した調査対象者が 50%以上となる項目とした。最後に、「Can-Do with Difficulty 項目」は、「Can-Do 項目」と「Can-Do with Difficulty 項目」の間であり、質問紙の各項目について「4：ほぼできる」あるいは「5：問題なくできる」、または、「1：全くできない」あるいは「2：ほとんどできない」と回答した調査対象者が 50%に満たない項目とした²⁾。

最後に、「Can-Do 項目」と「Can-Do with Difficulty 項目」を配置する習熟度群を決定した。「Can-Do 項目」は、質問紙の各項目について「4：ほぼできる」あるいは「5：問題なくできる」と回答した調査対象者が 50%以上となる全ての習熟度群の中で、最も習熟度の低い群へ配置した。他方、「Can-Do with Difficulty 項目」は、質問紙の各項目について「1：全くできない」あるいは「2：ほとんどできない」と回答した調査対象者が 50%以上となる全ての習熟度群の中で、最も習熟度の高い群の 1 つ上の群へ配置した (つまり「Can not Do 項目」とはならない習熟度群の中で、最も低い群へ配置)³⁾。

4. 結果

3.4 節で示した方法により、Can-Do リストの作成を行った。以下、Can-Do リスト作成の結果を表 1 から表 6 に示す。

表1. Reading についての Can-Do リスト

スコア	Can-Do	Can-Do with Difficulty
800-895	<ul style="list-style-type: none"> ■ ペーパーバック等の物語, 小説を読んで理解することができる。 	
700-795	<ul style="list-style-type: none"> ■ レストランのメニューがわかる。 ■ 事前に日本語のニュースや新聞等で内容を知っている話題であれば, 英字新聞を読んで理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 初めて目にする話題であっても英字新聞を読んで内容を理解することができる。
600-695	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自己紹介の内容の手紙を見て, 相手がどういう人か理解できる。 ■ 電車やバス, 飛行機等の時刻表を見て, 出発/到着時間や行き先を理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「Time」や「Newsweek」といった雑誌の記事を読んで内容を理解することができる。
500-595		
400-495	<ul style="list-style-type: none"> ■ 友達からの Birthday Card や Christmas Card, 年賀状等の簡単なハガキを読み, 理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 映画の英語字幕 (クローズド・キャプション) を見て内容を理解できる。 ■ CD 等に付属している英語の楽曲の歌詞を見て内容を理解できる。
300-395		<ul style="list-style-type: none"> ■ ペーパーバック等の物語, 小説を読んで理解することができる。 ■ 英語で書かれた住所を見てその場所を (地図上等で) 特定することができる。 ■ 英語で書かれた自分に興味がある内容のホームページを見て内容を理解できる。
200-295	<ul style="list-style-type: none"> ■ アルファベットを大文字, 小文字とも読むことができる。 ■ 簡単な案内用看板を見て意味を理解できる (「EXIT」, 「Entrance」, 「Stop!」等) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ レストランのメニューがわかる。 ■ 事前に日本語のニュースや新聞等で内容を知っている話題であれば, 英字新聞を読んで理解することができる。 ■ 自己紹介の内容の手紙を見て, 相手がどういう人か理解できる。 ■ 友達からの Birthday Card や Christmas Card, 年賀状等の簡単なハガキを読み, 理解することができる。 ■ 海外旅行の案内 (パンフレット等) を読んで理解できる。 ■ 電車やバス, 飛行機等の時刻表を見て, 出発/到着時間や行き先を理解できる。

表2. Writing についての Can-Do リスト

スコア	Can-Do	Can-Do with Difficulty
800-895	<ul style="list-style-type: none"> ■ 旅行に持っていくものの一覧表を書くことができる。 ■ 友達に自分が休暇中（夏休み等）に何をしていたかを知らせるハガキを書くことができる。 ■ まだ会ったことの無い人に自分を紹介する内容の手紙を書くことができる。 ■ 自分の将来の夢（どういった職業に就きたいか等）についての作文が書ける。 	
700-795	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自分の家の住所を書くことができる。 ■ 友達に待ち合わせの場所や時間を知らせるメモを書くことができる。 ■ 日記を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自分が行った自由研究の内容についての報告書（レポート）作成ができる。 ■ 自分の履歴書（経歴を示す書類）を書くことができる。
600-695		
500-595		<ul style="list-style-type: none"> ■ 読んだ本についての感想文を書くことができる。
400-495		<ul style="list-style-type: none"> ■ 旅行に持っていくものの一覧表を書くことができる。 ■ 自分の将来の夢（どういった職業に就きたいか等）についての作文が書ける。
300-395		<ul style="list-style-type: none"> ■ 友達に Birthday Card や Christmas Card, 年賀状等の簡単なハガキを書くことができる。 ■ 友達に自分が休暇中（夏休み等）に何をしていたかを知らせるハガキを書くことができる。 ■ 遅刻した理由を説明するための文書を書くことができる。 ■ 友達宛にパーティー開催の案内状を書くことができる。 ■ 自分の家の住所を書くことができる。 ■ まだ会ったことの無い人に自分を紹介する内容の手紙を書くことができる。 ■ 日記を書くことができる。
200-295	<ul style="list-style-type: none"> ■ アルファベットを大文字, 小文字とも書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 友達に待ち合わせの場所や時間を知らせるメモを書くことができる。

表3. Speaking についての Can-Do リスト

スコア	Can-Do	Can-Do with Difficulty
800-895	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自分の家までの道順を説明できる。 ■ 自分がとった行動についてその理由を説明できる。 ■ 意見が対立している時に、どういう理由でどちらに賛成する（あるいは反対する）といった自分の立場を表明できる。 ■ もし今自分に十分な時間とお金があったら何をしたいか、というテーマで話ができる。 	
700-795	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自分が学校で習っている（いた）こと（専攻）について説明できる。 ■ 自分の将来の夢（来年は何をしたいと思っているか等）について話すことができる。 ■ 今日一日の自分の行動を順を追って説明できる（例：何時に起き、次に何をし…といった具合） 	
600-695		
500-595	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自分の友人について、身体的特徴（背が高い等）や性格を説明することができる。 ■ 自分の日常生活について（起床、昼食の時間など）話すことができる。 ■ レストランで（メニューを見ながら）注文することができる。 ■ 人に何をしている人か（職業）尋ねることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自分が見た映画、テレビ番組のあらすじを説明できる。 ■ 親しい友人／知人が集まるパーティーで、簡単なスピーチができる。
400-495		
300-395		<ul style="list-style-type: none"> ■ 自分が学校で習っている（いた）こと（専攻）について説明できる。 ■ 自分がとった行動についてその理由を説明できる。 ■ 今日一日の自分の行動を順を追って説明できる（例：何時に起き、次に何をし…といった具合） ■ 意見が対立している時に、どういう理由でどちらに賛成する（あるいは反対する）といった自分の立場を表明できる。 ■ もし今自分に十分な時間とお金があったら何をしたいか、というテーマで話ができる。
200-295	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自己紹介（氏名、年齢、学年等）ができる。 ■ 人と会った時や別れの際の挨拶ができる。 ■ 自分の出身地を人に伝えることができる。 ■ 自分の家族構成について説明することができる。 ■ 曜日や月の名前がわかる。 ■ 数を数えることができる。 ■ 相手の言っていることがわからない時に、聞き返したり、もっとゆっくり話してくれるよう頼むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自分の友人について、身体的特徴（背が高い等）や性格を説明することができる。 ■ 自分の将来の夢（来年は何をしたいと思っているか等）について話すことができる。 ■ 自分の日常生活について（起床、昼食の時間など）話すことができる。 ■ レストランで（メニューを見ながら）注文することができる。 ■ 人に何をしている人か（職業）尋ねることができる。

表4. Listening についての Can-Do リスト

スコア	Can-Do	Can-Do with Difficulty
800-895	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事前に日本語のニュースや新聞等で内容を知っている話題であれば、テレビのニュースでアナウンサーの話す内容を聞いて理解することができる。 ■ 搭乗時刻や出発ゲート等に関する一般的な空港でのアナウンスを聞いて理解できる。 ■ レストランでウェイターが行う本日のお勧めメニューの説明を聞いて理解できる。 ■ 人の呼び出しや予定行事の(変更)案内といった、公共の場でよく行われるアナウンスを聞いて内容を理解できる。 ■ 意見が異なる2人の議論を聞いて、双方の主張の要点や対立点が理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 初めて耳にする話題であってもテレビのニュースを聞いてアナウンサーの話す内容を理解することができる。 ■ 自分の専攻分野の講義や講演を聞いて理解することができる。
700-795		<ul style="list-style-type: none"> ■ テレビやラジオのニュースなどで、インタビューに答えている人の話す内容を聞いて理解することができる。
600-695		
500-595		<ul style="list-style-type: none"> ■ 意見が異なる2人の議論を聞いて、双方の主張の要点や対立点が理解できる。
400-495		
300-395		<ul style="list-style-type: none"> ■ 搭乗時刻や出発ゲート等に関する一般的な空港でのアナウンスを聞いて理解できる。 ■ レストランでウェイターが行う本日のお勧めメニューの説明を聞いて理解できる。 ■ 人の呼び出しや予定行事の(変更)案内といった、公共の場でよく行われるアナウンスを聞いて内容を理解できる。
200-295	<ul style="list-style-type: none"> ■ “How are you?” “Where do you live?” “How do you feel?” といった簡単な挨拶や質問を理解できる。 ■ ゆっくりと配慮して話してもらえば、近くの場所までの道順を理解できる。 ■ 自己紹介を聞いて(耳慣れない人名や地名でなければ)相手の名前や出身地等を聞き取ることができる。 ■ 曜日や月を聞いて理解できる。 ■ 日付、時間を聞いて理解できる。 ■ 先生が授業中に出す指示を理解できる。(“Open your textbook to page…” など) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事前に日本語のニュースや新聞等で内容を知っている話題であれば、テレビのニュースでアナウンサーの話す内容を聞いて理解することができる。

表5. Interaction についての Can-Do リスト

スコア	Can-Do	Can-Do with Difficulty
800-895	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自分の行きたい場所までの道順や行き方を人に尋ねることができる。 ■ 親しい友人／知人と、自分が関心を持つ最近の出来事や事件について話し、自分の考えを伝えることができる。 ■ 自分が興味／関心を持つ分野で人と議論し、相手と意見が異なった際には、なぜ自分はそのように考えるか理由を添えて説明することができる。 ■ 日本に観光に来た外国人に何かを尋ねられた際に（目的地までの行き方等）、応対してあげることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 到着した空港で手荷物紛失等のトラブルがあった際に、担当者に状況を説明し、その後の対処方法について確認を取ることができる。
700-795	<ul style="list-style-type: none"> ■ 空港の出入国カウンターで、審査官との一般的なやりとり（滞在期間、目的等）ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 銀行窓口で、お金の引出しや両替といった簡単な用を足すことができる。 ■ 電気店で、故障した商品について説明し、修理を依頼することができる。
600-695		<ul style="list-style-type: none"> ■ ホテルのフロントで宿泊日程変更（延長、キャンセル）ができる。 ■ 自分が興味／関心を持つ分野で人と議論し、相手と意見が異なった際には、なぜ自分はそのように考えるか理由を添えて説明することができる。
500-595		<ul style="list-style-type: none"> ■ レストランに電話して予約をすることができる。 ■ ホテルのフロントで通常のチェックイン、チェックアウトの手続きを取れる。
400-495	<ul style="list-style-type: none"> ■ 初対面の人と簡単な挨拶の言葉を交わすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 親しい友人／知人と、自分が関心を持つ最近の出来事や事件について話し、自分の考えを伝えることができる。
300-395		<ul style="list-style-type: none"> ■ 日本に観光に来た外国人に何かを尋ねられた際に（目的地までの行き方等）、応対してあげることができる。
200-295		<ul style="list-style-type: none"> ■ 初対面の人と簡単な挨拶の言葉を交わすことができる。 ■ 空港の出入国カウンターで、審査官との一般的なやりとり（滞在期間、目的等）ができる。 ■ 友達の家に電話して友達を電話口に呼び出してもらうことができる。 ■ タクシーの運転手に自分の行きたい場所を説明することができる。 ■ 自分の行きたい場所までの道順や行き方を人に尋ねることができる。

表6. Function についての Can-Do リスト

スコア	Can-Do	Can-Do with Difficulty
800-895		
700-795		
600-695	<ul style="list-style-type: none"> ■ 希望や不安を表す表現ができる。(例：彼は私の英語を理解してくれるだろうか) 	
500-595	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自分の意見を提案するような形で表現できる。(例：明日の集まりは中止にしてはどうでしょうか) ■ 心配を表す表現ができる。(例：あなたが電車に乗り遅れないか心配です) 	
400-495		
300-395		<ul style="list-style-type: none"> ■ 自分の意見を提案するような形で表現できる。(例：明日の集まりは中止にしてはどうでしょうか) ■ 希望や不安を表す表現ができる。(例：彼は私の英語を理解してくれるだろうか)
200-295	<ul style="list-style-type: none"> ■ 私は○○を持っているという表現ができる。(例：私はノートパソコンを持っています。) ■ 何かわからない物について「それは何ですか?」といった質問ができる。 ■ 日付や時間の表現ができる。(例：運動会は5月10日午前9時30分からです。) ■ 必要を表す表現ができる。(例：英語の勉強には辞書が必要です) ■ 何か物が欲しいことを表現できる。(例：何か書くものをください。水が飲みたい。など) ■ 人にお願いをする表現ができる。(例：机を動かすのを手伝って欲しい) ■ 自分が得意なこと、できることを説明する表現ができる。(例：ピアノを弾くことができる) ■ 人に許可を求める表現ができる。(例：このボールを使ってもいいですか) ■ 数量を表現できる (例：えんぴつ3本、卵5個) ■ 分量や用量、大きさ等を表現できる (例：1平方メートルの板。5リットルの水。など) ■ 何時から何時までといった表現ができる。(例：昼食時間は12時から13時までです) ■ 人を何かに誘う表現ができる。(例：お昼ご飯に行きましょう) ■ 理由を尋ねる表現ができる。(例：なぜ遅刻したのですか) ■ 頻度を表す表現ができる。(例：この機械は時々故障する) ■ 人がいる、あるいは物が置いてある場所の表現ができる。(例：机の上。ドアの後ろ。など) ■ 予測や可能性を表す表現ができる。(例：明日は雨が降りそうだ) ■ 自分の意見を断定的な表現で表すことができる。(例：明日の集まりは中止すべきだと思います) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 心配を表す表現ができる。(例：あなたが電車に乗り遅れないか心配です)

5. おわりに

本稿では、広島大学英語 Can-Do リストの開発について、その経緯と方法を示し、実際の Can-Do リストを掲載した。今後、本 Can-Do リストを用いて本学の学生が英語学習により効果的に取り組むことが期待される。

しかしながら、本 Can-Do リストは未だ発展途上であり、本稿に掲載したものが最終版ではない。今後の課題としては、主に次の2点が挙げられる。第一に上級者（TOEIC テストで 800 点以上を取得する学生）のデータを追加することである。本稿で用いたデータには、上級者がほとんど含まれていない。例えば、800 点から 895 点までの学習者の数は非常に少ないため、データを追加すると Can-Do 項目、Can-Do with Difficulty 項目が変化する可能性がある。さらに、TOEIC テストのスコアが 900 点から 995 点までの学習者の Can-Do 記述は対象となる学習者がほとんどいなかったため、掲載できなかった。以上の問題を克服するために、上級者のデータ追加が期待される。第二に、Can-Do 記述の追加と削除である。本プロジェクトでは、IIBC による既存の質問紙を用いて Can-Do リストの開発を行った。そのため、この質問紙に記載されていない側面については Can-Do リストに含まれなかった。今後、本 Can-Do リストを精緻化するにあたり、Can-Do 記述の追加と削除などの修正が必要になるかもしれない。

最後に、本 Can-Do リストを具体的にどのように利用するかについて、今後の方向性を示す。第一に、大学入学時における英語力の把握と卒業時の目標設定が挙げられる。広島大学では、大学一年生全員を対象に入学直後の5月に TOEIC®IP テストを実施している。そこでのスコアを元に、学生に対して入学時の英語力を示す。また、卒業時にどの程度の英語力（TOEIC スコア）を得たいのか、逆に、本 Can-Do リストをもとに、どのような力をつけていきたいのか、そのためには TOEIC テストで何点を目標にすべきかなど、個々人が自身の学生生活を通じた英語学習の目標を設定する。これにより、学生の主体的な英語学習を支援することができると考えられる。第二に、本 Can-Do リストと授業、教材との連携が挙げられる。授業を提供する教師側としては、TOEIC スコアだけでなく Can-Do の形で受講生の英語力を把握することにより、より効果的な授業設計が可能となる。また授業を受ける学生側としては、現在の Can-Do レベルから次の Can-Do レベルへ移行するためには、どのような授業を受ければよいか、どのような側面を強化すればよいかについての情報が提供されるため、より効果的な学習計画を立てることが可能となる。また、高いレベルの英語力の獲得には授業外での自学自習も不可欠である。本 Can-Do リストをもとにして、学習者が次のレベルへ至るための教材を効果的に選択できるように整備・支援していくことも必要となる。今後、本 Can-Do リストを精緻化し、これらの点において広島大学の英語教育がさらに改善されることが期待される。

注

- 1) 調査対象者が所属する主専攻プログラムの英語習熟度 TOEIC®IP テストのスコアは本学外国語教育研究センターのウェブサイト (<http://home.hiroshima-u.ac.jp/flare/toeicip/data.html>) を参照のこと。
- 2) この方法は Educational Testing Service による Can-Do リスト作成方法に準じるものである。
- 3) ある項目が「Can-Do 項目」と「Can-Do with Difficulty 項目」、あるいは「Can not Do 項目」と「Can-Do with Difficulty 項目」として、習熟度の異なる群に同時に配置された場合、「Can-Do with Difficulty 項目」は削除した。

参考文献

榎田一路 (2009). 「英語学習用ポッドキャスト“Hiroshima University’s English Podcast”：オリジナル番組の制作と配信システムの構築」『広島外国語教育研究』12, 71-83.

外国語能力の向上に関する検討会 (2011). 「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策」

http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2011/07/13/1308401_1.pdf (閲覧日：2017年1月9日).

投野由紀夫編 (2013). 『CAN-DO リスト作成・活用 英語到達度指標 CEFR-J ガイドブック』大修館書店.

文部科学省初等中等教育局 (2013). 「各中・高等学校の外国語教育における『CAN-DO リスト』の形での学習到達目標設定のための手引き」

http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/__icsFiles/afieldfile/2013/05/08/1332306_4.pdf (閲覧日：2017年1月9日).

Appendix

読む力 (Reading) について

1	ペーパーバック等の物語, 小説を読んで理解することができる。
2	レストランのメニューがわかる。
3	事前に日本語のニュースや新聞等で内容を知っている話題であれば, 英字新聞を読んで理解することができる。
4	初めて目にする話題であっても, 英字新聞を読んで内容を理解することができる。
5	アルファベットを大文字, 小文字とも読むことができる。
6	英語で書かれた住所を見てその場所を (地図上で) 特定することができる。
7	自己紹介の内容の手紙を見て, 相手がどういう人か理解できる。
8	簡単な案内用看板を見て意味を理解できる。 (「EXIT」「Entrance」「STOP!」など)
9	友達からの Birthday Card や Christmas Card, 年賀状等の簡単なハガキを読み, 理解することができる。
10	映画の英語字幕 (クロズド・キャプション) を見て内容を理解できる。
11	CD 等に付属している英語の楽曲の歌詞を見て内容を理解できる。
12	英語で書かれた自分に興味がある内容のホームページを見て内容を理解できる。
13	海外旅行の案内 (パンフレット等) を読んで理解できる。
14	電車やバス, 飛行機等の時刻表を見て, 出発/到着時間や行先を理解できる。
15	Time や Newsweek といった雑誌の記事を読んで内容を理解することができる。

書く力 (Writing) について

1	旅行に持っていくものの一覧表を書くことができる。
2	友達に Birthday Card や Christmas Card, 年賀状等の簡単なハガキを書くことができる。
3	自分の家まで行く道順を書き表すことができる。
4	友達に自分が休暇中 (夏休み等) に何をしていたかを知らせるハガキを書くことができる。
5	遅刻した理由を説明するための文書を書くことができる。
6	アルファベットを大文字, 小文字とも書くことができる。
7	友達宛にパーティー開催の案内状を書くことができる。
8	自分の家の住所を書くことができる。
9	自分が行った自由研究の内容についての報告書 (レポート) 作成ができる。
10	自分の履歴書 (経歴を示す書類) を書くことができる。
11	読んだ本についての感想文を書くことができる。
12	まだ会ったことの無い人に自分を紹介する内容の手紙を書くことができる。
13	友達に待ち合わせの場所や時間を知らせるメモを書くことができる。
14	自分の将来の夢 (どういった職業に就きたいか等) についての作文が書ける。
15	日記を書くことができる。

話す力 (Speaking) について

1	自己紹介 (氏名, 年齢, 学年等) ができる。
2	人と会った時や別れ際の挨拶ができる。
3	自分の出身地を人に伝えることができる。
4	自分の家族構成について説明することができる。
5	自分が見た映画, テレビ番組のあらすじを説明できる。

6	自分の友人について、身体的特徴（背が高い等）や性格を説明することができる。
7	自分が学校で習っている（いた）こと（専攻）について説明できる。
8	自分の将来の夢（来年は何をしたいと思っているか等）について話すことができる。
9	曜日や月の名前が言える。
10	自分の日常生活について（起床、昼食の時間など）話すことができる。
11	数を数えることができる。
12	相手の言っていることが分からない時に、聞き返したりもっとゆっくり話してくれるよう頼むことができる。
13	レストランで（メニューを見ながら）注文することができる。
14	人に何をしている人か（職業）尋ねることができる。
15	親しい友人／知人が集まるパーティーで、簡単なスピーチができる。
16	自分の家までの道順を説明できる。
17	自分がとった行動についてその理由を説明できる。
18	今日一日の自分の行動を順を追って説明できる（何時に起き、次に何をし…といった具合）
19	意見が対立している時に、どういう理由でどちらに賛成する（あるいは反対する）といった自分の立場を表明できる。
20	もし今自分に十分な時間とお金があったら何をしたいか、というテーマで話ができる。

聞く力 (Listening) について

1	“How are you?”“Where do you live?”“How do you feel?”といった簡単な挨拶や質問を理解できる。
2	ゆっくりと配慮して話してもらえれば、近くの場所までの道順を理解できる。
3	自己紹介を聞いて（耳慣れない人名や地名でなければ）相手の名前や出身地等を聞き取ることができる。
4	曜日や月を聞いて理解できる。
5	日付、時間を聞いて理解できる。
6	事前に日本語のニュースや新聞等で内容を知っている話題であれば、テレビのニュースでアナウンサーの話す内容を聞いて理解することができる。
7	初めて耳にする話題であってもテレビのニュースを聞いてアナウンサーの話す内容を理解することができる。
8	映画やテレビドラマを見て（聞いて）内容を理解できる。
9	テレビやラジオのニュースなどで、インタビューに答えている人の話す内容を聞いて理解することができる。
10	自分の専攻分野の講義や講演を聞いて理解することができる。
11	搭乗時刻や出発ゲート等に関する一般的な空港でのアナウンスを聞いて理解できる。
12	レストランでウェイトラーが行う本日のお勧めメニューの説明を聞いて理解できる。
13	人の呼び出しや予定行事の（変更）案内といった、公共の場でよく行われるアナウンスを聞いて内容を理解できる。
14	先生が授業中に出す指示を理解できる。（“Open your textbook to page …”など）
15	意見が異なる2人の議論を聞いて、双方の主張の要点や対立点が理解できる。

人とやりとりする力 (Interaction) について

1	初対面の人と簡単な挨拶の言葉を交わすことができる。
2	空港の出入国カウンターで、審査官との一般的なやりとり（滞在期間、目的等）ができる。

3	友達の家に電話して友達を電話口に呼び出してもらうことができる。
4	レストランに電話して予約をすることができる。
5	ホテルのフロントで通常のチェックイン、チェックアウトの手続きをとれる。
6	ホテルのフロントで宿泊日程変更（延長、キャンセル）ができる。
7	銀行窓口で、お金の引き出しや両替といった簡単な用を足すことができる。
8	タクシーの運転手に自分の行きたい場所を説明することができる。
9	電気店で、自分の欲しい商品について販売員と話すことができる。
10	電気店で、故障した商品について説明し、修理を依頼することができる。
11	到着した空港で手荷物紛失等のトラブルがあった際に、担当者に状況を説明し、その後の対処法について確認を取ることができる。
12	自分の行きたい場所までの道順や行き方を人に尋ねることができる。
13	親しい友人／知人と、自分が関心を持つ最近の出来事や事件について話し、自分の考えを伝えることができる。
14	自分が興味／関心を持つ分野で人と議論し、相手と意見が異なった際には、なぜ自分はそのように考えるか理由を添えて説明することができる。
15	日本に観光にきた外国人に何か尋ねられた際に、（目的地までの行き方等）、応対してあげることができる。

機能的表現力（Function）について

1	私は○○を持っているという表現ができる。（例：私はノートパソコンを持っています）
2	何か分からない物について「それは何ですか？」といった質問ができる。
3	日付や時間の表現ができる。（例：運動会は5月10日午前9時30分からです）
4	必要を表す表現ができる。（例：英語の勉強には辞書が必要です）
5	何か物が欲しいことを表現できる。（例：何か書くものをください。水が飲みたい。など）
6	人をお願いする表現ができる。（例：机を動かすのを手伝ってほしい）
7	自分が得意なこと、できることを説明する表現ができる。（例：ピアノを弾くことができる）
8	人に許可を求める表現ができる。（例：このボールを使ってもいいですか。）
9	数量を表現できる。（例：えんぴつ3本。卵5個）
10	分量や容量、大きさ等を表現できる。（例：1平方メートルの板。5リットルの水。など）
11	何時から何時までといった表現ができる。（例：昼食時間は12時から13時までです）
12	人を何かに誘う表現ができる。（例：お昼ごはんに行きましょう）
13	理由を尋ねる表現ができる。（例：なぜ遅刻したのですか？）
14	頻度を表す表現ができる。（例：この機械は時々故障する）
15	人がいる、あるいは物が置いてある場所の表現ができる。（例：机の上。ドアの後ろ。など）
16	予測や可能性を表す表現ができる。（例：明日は雨が降りそうだ）
17	自分の意見を断定的な表現で表すことができる。（例：明日の集まりは中止すべきだと思います）
18	自分の意見を提案するような形で表現できる。（例：明日の集まりは中止にしてはどうでしょうか）
19	希望や不安を表す表現ができる。（例：彼は私の英語を理解してくれるだろうか）
20	心配を表す表現ができる。（例：あなたが電車に乗り遅れないか心配です）

ABSTRACT

The Development of a Hiroshima University English Can-Do List

Shusaku KIDA, Kazumichi ENOKIDA, Koji UENISHI, Kunihiro KUSANAGI,
Tatsuya SAKAUE, Fuyuko TAKITA, Keiso TATSUKAWA, Mitsuhiro MORITA,
Goro YAMAMOTO, Lisa YOSHIKAWA

Institute for Foreign Language Research and Education
Hiroshima University

The present paper reports the background of and the procedure for the development of a Hiroshima University English Can-Do List. Students at Hiroshima University take English courses as a part of their liberal arts education requirement, but the total amount of this course-based learning is not sufficient to achieve high-level English proficiency. Therefore, the Institute for Foreign Language Research and Education (FLaRE) at Hiroshima University has so far prepared English learning environments for students' self-learning, such as online e-learning courses and extensive reading resources. However, given the fact that it is difficult for students to keep learning by themselves, some system of assistance that motivates them to keep learning is important. The Hiroshima University English Can-Do List was developed as a part of this system.

The participants of the present project were about 1,000 first-year students at Hiroshima University who are required to take eight credits for English in liberal arts education. A can-do list questionnaire, which was developed by the Institute for International Business Communication (IIBC), was used in this study. The questionnaire asks the participants to rate various can-do statements on a five-point Likert scale (1: *cannot do at all* to 5: *can do without any difficulty*).

Based on the results of the TOEIC®IP test and the questionnaire, the Hiroshima University English Can-Do List was developed. The participants were first divided into seven proficiency levels based on the TOEIC IP test score. Then, appropriate proficiency levels were decided for “can-do” and “can-do with difficulty” statements. This paper showed the first draft of the Hiroshima University English Can-Do List.

There are still some tasks remaining: First, the can-do list reported here should be revised with more data from high proficiency students; second, some better can-do statements could be added or inappropriate ones could be deleted in the future. Future refinement of the list is expected.